

## eラーニングにおける社会人学習者の学習動機による学習行動の特徴

## Characteristics of Adult Learner's Learning Action in e-Learning related Motivation

権藤 俊彦<sup>\*1</sup>, 合田 美子<sup>\*2</sup>Toshihiko GONDO<sup>\*1</sup>, Yoshiko GODA<sup>\*2</sup><sup>\*1</sup> 青山学院大学ヒューマン・イノベーション研究センター<sup>\*1</sup>Human Innovation Research Center, Aoyama Gakuin University<sup>\*2</sup> 熊本大学<sup>\*2</sup>Kumamoto University

Email: gon@a2en.aoyama.ac.jp

あらまし：本稿では、社会人を対象とするeラーニングを活用した研修において、学習の動機による学習行動の違いを分析した。

キーワード：eラーニング, 動機付け, 成人学習, ブレンディッドラーニング

## 1. はじめに

大学生と大学院生のブレンディッドラーニングでは、学習者の特性が成績に影響を与える<sup>(1)</sup>といわれている。さまざまな背景をもつ社会人が学習するeラーニング研修の場合、受講者の特性はより多様になる。研修の設計、学習支援を考えるうえで、社会人学習者の特性を把握し、さらに学習行動を

青山学院大学ヒューマン・イノベーション研究センターが主催する「eラーニング専門家育成プログラム 社会人向け基礎講座(以下、「基礎講座」と表記)」の受講者を対象に、動機による学習者の行動の類型化を試みる。

## 2. 基礎講座の概要

基礎講座は、特定非営利活動法人日本イーラーニングコンソシアムより「eLP ベーシック」資格の認定が受けられる資格取得プログラムである。同コンソシアムの審査を受け、eLP ベーシック資格のコンピテンシーを修得可能であることを認められている。

基礎講座は以下の4コースで構成される。

- ・ eラーニングとビジネス
- ・ インストラクショナルデザインと学習理論
- ・ ICTとラーニングシステム
- ・ eラーニングにおける著作権と個人情報

修了認定要件は、対面授業への出席、コースごとに設定された修了試験の合格、課題の提出である。課題は「ICTとラーニングシステム」を除いた3コースで課されている。「インストラクショナルデザインと学習理論」では提出物が2本あり、順番に取り組む。これらの提出物には、期間中に講師がフィードバックを行う。その内容によっては、学習者は課題の再提出を課されることもある。またこの2つの課題には提出締め切りが終了日ではなく開講期間途中に設定されている。「eラーニングとビジネス」と「eラーニングにおける著作権と個人情報」では提出物は1本ずつであり、こちらは講座終了後に講師

がそれぞれフィードバックを行う。終了後のため、課題の再提出を求めることはない。

本研究では2009年度に開催した第2回～第4回の講座の結果を用いた。また講座を構成する4コースのうち「インストラクショナルデザインと学習理論」における2つの課題への取り組みに焦点を当てた。対象をこの2つに絞り込んだのは、他の課題と違い期間中に締め切りがあることや、講師からのフィードバックによって学習期間中に講師とのコミュニケーションが発生することなど、学習者の学習活動を多様にさせる要素が介在しているためである。

## 3. 主な結果

3回分合計の受講者と修了率は表1のとおりであった。また受講者の勤務先と受講動機の関係は表2のようになった。

## 3.1 学習動機と前提知識の有無による学習活動の比較

学習動機グループごとの前提知識の有無による活動の違いを比較した(表3)。前提知識を持たない学習者は60%以上が他者の提出物を学習リソースとして活用していたのに対して、前提知識があるグループはおよそ3分の1しかいなかった。中でもインセンティブのない外発的動機と前提知識を持つ学習者は5名いたものの、他者の提出物を参照した者は1人もいなかった。またこのグループは他のグループに比べてコース満足度が低い傾向がみられた(表4)。

## 3.2 学習動機と学習方略の種類による学習活動の比較

学習動機と学習活動の組み合わせによる学習者の評価を比較した(表5)。対象コースの2つの課題にまつわる学習活動をログより取得し、3つの動機グループと公式の教材以外の4種の学習リソースを組み合わせ、ポストアンケートによる評価を集計した。対象者の母集団は最終的な修了者である。

表 1 主な実績

	学習者	プレアンケート回答者	大福帳回答者	ポストアンケート回答者	修了者	未修了者	修了率	eLP 資格申請者
2回	18	17	9	11	13	5	72.2%	13
3回	36	33	33	30	32	4	88.9%	22
4回	23	21	21	17	21	2	91.3%	19
計	77	71	63	58	66	11	85.7%	54

表 2 同期の種類による受講者のグループ

	業務関連性 (内的動機)	資格目的 (外的動機)	業務命令 (外的動機)
高等教育機関	15	8	2
その他の教育機関	0	0	0
官公庁・自治体	1	1	0
eラーニング関連 企業・団体	13	3	7
その他の企業・団体	7	4	0
主婦	1	4	0
その他	0	0	0
未回答	8	5	1

表 3 学習動機と前提知識の有無による学習活動の比較

	対象者	他者の提出物	他者へのFB	他の文献	ネット情報	基本教材のみ
業務関連性 前提知識有	22	8(36.4%)	8(36.4%)	1(4.5%)	7(31.8%)	5(22.7%)
業務関連性 前提知識無	23	14(60.9%)	7(30.4%)	6(26.1%)	12(52.2%)	3(13.0%)
資格目的 前提知識有	16	6(37.5%)	5(31.3%)	1(6.3%)	6(37.5%)	3(18.8%)
資格目的 前提知識無	9	6(66.7%)	3(33.3%)	3(33.3%)	6(66.7%)	2(22.2%)
業務命令 前提知識有	5	0(0.0%)	0(0.0%)	1(20.0%)	2(40.0%)	1(20.0%)
業務命令 前提知識無	5	3(60.0%)	1(20.0%)	0(0.0%)	1(20.0%)	0(0.0%)

表 4 学習動機と前提知識の有無による評価の比較

	対象者	コース満足度	自己効力感ー	自己効力感ハ	平均 揭示板ア クセス回数
業務関連性+前提知識有	22	3.4	2.8	2.9	55.2
業務関連性+前提知識無	23	3.5	2.7	2.7	68.3
資格目的+前提知識有	16	3.4	2.8	2.8	61.7
資格目的+前提知識無	9	3.7	2.7	2.7	91.3
業務命令+前提知識有	5	3.0	2.8	2.8	68.0
業務命令+前提知識無	5	3.8	2.8	2.8	52.2

表 5 学習動機と学習方略の種類による評価の比較

	対象者	コース満足度	自己効力感ー	自己効力感ハ	平均 揭示板ア クセス回数
業務関連性 他者の提出物	22	3.6	2.7	2.8	76.7
業務関連性 他者へのFB	15	3.6	2.7	2.9	79.1
業務関連性 他の文献	7	3.9	2.7	2.7	64.0
業務関連性 ネット情報	19	3.6	2.7	2.7	68.9
業務関連性 基本教材のみ	8	3.3	2.9	3.3	49.3
資格目的 他者の提出物	12	3.7	2.7	2.7	85.8
資格目的 他者へのFB	8	4.0	3.0	3.0	93.8
資格目的 他の文献	4	3.0	2.0	2.0	66.0
資格目的 ネット情報	12	3.3	2.7	2.7	91.3
資格目的 基本教材のみ	5	4.0	3.0	3.0	26.6
業務命令 他者の提出物	3	3.7	2.7	2.7	68.3
業務命令 他者へのFB	1	4.0	3.0	3.0	99.0
業務命令 他の文献	1	3.0	2.0	2.0	21.0
業務命令 ネット情報	3	3.3	2.7	2.7	45.7
業務命令 基本教材のみ	1	4.0	3.0	3.0	86.0

参考文献

- (1) 中山実, 山本洋雄, SANTIAGO Rowena. 学習者特性がブレンド学習の行動に及ぼす影響, 電子情報通信学会技術研究報告. ET, 教育工学 106(364), 49-54, 2006-11-11